
はじめに

中学校の教師を志す数名の学生に「どんな担任の先生が印象に残っていますか」と、質問を投げかけてみました。すると、思いのほか話が弾み、最終的に「教わっている教科がきらいになってしまふぐらいの担任」というネガティブな教師像がまとまりました。

浮かび上がったのは、次のようなイメージです。

求められない担任の先生

冷静なのはいいが表情がなく、授業は平板で一方向的、進路指導では失敗を前提に成績に見合った上級学校への志望変更を求め、先生自身は体が弱く病気を理由に休みがち、そもそも子供が嫌いで相談に乗ってくれなさそうな担任

そっくりそうだ、というわけではないのですが、いくつかの条件が当てはまりそうな元同僚を思い出し、苦笑してしまいます。この反対をイメージすれば、求められる教師像が浮かび上がります。

求められる担任の先生

いつも明るく、授業が上手で、未来を前向きに捉え、健康で元気、子供好きで、生徒の相談に乗ってくれそうな担任

こういう先生なら、生徒の心を豊かにし、質の高い学力を定着させ、保護者からも信頼される存在になります。併せて、教師同士の人間関係や地域とのつながりを大切にすれば、学校にとってなくてはならない学校を元気にする人材となります。実際、なぜあんなに生徒が慕ってくるのかと不思議になるぐらいの信頼関係をしっかり築いている教師が、どの学校にも何人もいます。

本書は、そういう魅力的な教師がどのような学級づくりをしているのか、学級経営を切り口として、具体的な事例を紹介しています。

第1章では概論を示し、第2章では具体的に事例を示しています。お読みになって、そのいくつかの事例を実践すれば、学級が変わり始めます。すなわち、学級がよい方向に動き出します。

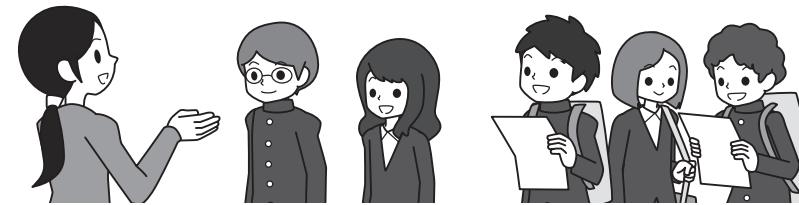
本書は、読者の皆さまの学級経営の向上を支援するために、学級経営に情熱を傾け、都内の中学校の第一線でご活躍の方々から玉稿を賜ったものです。この場を借りて、心から御礼を申し上げます。

令和5年2月

編集代表 山口 晃弘

本書活用のポイント

本書では、4月から3月まで毎月どのような学級経営を行っていけばよいか、各月の目標・注意事項を解説しています。また、学級経営の具体的なアイデアを、イラストをもとに、どのクラスでも運用できるような形で紹介しています。ぜひ、ご自身のクラスでも実践してみてください。



1年間を見通した学級経営を!

本書の見方

月初め概論ページ

4月 最高の出会いを演出する

4月の目標 1

入学式は新しい出会いのスタートです。新しい先生、新しい友達、新しい学校名とクラス名、出席番号と、今までとは違うことに、ワクワクする前向きな気持ちをもつ生徒がいます。その反面、環境の変化に不安な気持ちをもち、気分が晴れない生徒もいます。中学校では教科担任制となり、朝の会、帰りの会しか会えない担任との距離に慣れなかったり、知っている友達が少なかったりすることで、学級への所属意識が低くなります。しかし、出会った先生や仲間を大切にできるような経験が大切です。そこで、学級が自分のベース（拠点）や、仲間づくりのスタートとして学級が意識できるように学級を運営していきます。

4月の学級経営を充実させるために

「最高の出会い」をつくり出す

生徒だけでなく、新1年生の学級担任も今後の学級経営を考えると、前向きな気持ちと不安な気持ちが混ざっていることが多いでしょう。そこで、入学式後の学級での担任からの話として、出会った喜びと、新しい出会いへの不安について、ゆったりと話すことで安心感をもたせていくことが大切です。生徒と担任の両者が自分の気持ちを受け止め、多様な気持ちをもつ生徒の存在を認める環境づくりを始めるスタートとします。

はじめの担任の話の例

「1年A組の担任の〇〇です。入学式での立派な姿から、みなさんと出会ったことをうれしく思います。クラスや私の名前なども覚えるのが大変ですね。クラスの友達も知っている人もいますけれど、新しい友達がいれば名前も顔が分からない人もいますね。私もみなさんと同じように不安もあります。けれど、この出会いを基にして、A組がみなさんのベース（拠点）となるように大きくなっていくと思います。はじめに、名前を知るために名刺交換をしましょう。その後に、自己紹介シートを記入します。この後の自己紹介は、「A組ベース」として、みなさんの考えやアイデアを書いてください」

注意事項

学年や学級での共通のルール（マナー）を確認する

新しい仲間の中で初めての発表です。緊張することで、言葉が聞き取れず、なめらかに話せな

ったり、声が小さかったりすることがあります。そこで、事前に全員が上手にできるとは限らないことを話して、分からないときは自己紹介シートを見たり、担任からアドバイスや話しかけたりすることを説明しておくのが重要です。さらに、発表内容をあらかじめ、ふざけたりしないことを学級のルールとして確認しながら、多様な生徒の存在に気が付けるようにしましょう。

自己紹介のコツ 2

ねらい

はじめは名刺交換、次に自己紹介シートの作成の順であることを説明します。名刺は事前に1人10枚程度を記入し配布できるように準備して、名前にはふりがなをふり、もらった人が間違えないように配慮しましょう。名刺に記入する項目は、「好きなたべもの」のように誰でも短時間で考えられるような内容とし、「嫌いなたべもの」のように否定的な内容にならないようにします。名刺交換時は、クラス名を入れて何回か話すと、自分のクラスを意識し、クラスへの所属意識が高まります。

活動例

A: 名刺交換

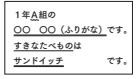
- 1はじめの5分間で名刺を記入する。
- 机と椅子を教室の後ろに寄せ、名刺を持った生徒は好きな場所で待機する。
- 音楽を流し、時間決めずに途中で音楽をストップさせて、近くの2〜3人と名刺交換をする。交換の時間は短くして、なるべく多くの生徒と名刺交換できるように工夫する。
- 自分の名刺がなくなった生徒は終了となるが、交換するタイミングや積極的に交換できない生徒がいることを予想して、事前に、すべて時間内で交換できなくてもよいことを説明しておく。積極的にでない生徒と担任が交換したり、複数の生徒と同時に交換したりするなどして、学級に慣れていくように配慮する。

B: 自己紹介シートの活用

自己紹介シートは、「簡単に記入できるデザインをする」ことで、生徒の負担を減らす配慮をする。完成したシートを生活館などに学級の後ろに掲示し、昼休みや放課後などに生徒同士や担任と会話ができる時間を設定する。例えば、絵が丁寧、色が多く使ったデザインされている、はやっという物などの話題を引き出し、自分と共通なところや興味をもつ内容を言葉に出す場面から、仲間づくりのきっかけとすることができ。

活動後のポイント

名刺交換で学級を構成する生徒の特徴と学級の雰囲気把握した後に、自己紹介シートを活用します。シートに学級経営の中心となる学級目標の作成につながる「ひとこと」「思い」を記入する箇所を用意して学級担任の思いを伝えるとともに、生徒の学級への所属意識を高めます。



学級経営アイデア紹介ページ

4月 中学校生活のスタートダッシュ

ねらい

良い緊張感のもと、中学校の生活を始められるようにする。

指導のポイント

今まで通っていた小学校と違う環境に飛び込むことになる生徒は、緊張も大きいと予想されます。中学校の環境やシステムに早く慣れ、安心して通学できるような声かけや活動を心がけたいところです。

また、出身小学校も複数になることを念頭に置いておくことがよいでしょう。

活動の展開 3

01 担任との出会いも大切に

入学式後の学級で、担任の簡単な自己紹介や授業は話していることですが、気が早いのですが、今度は改めて3年後の卒業を契機として、どんな中学生になるかを、どんなふうに関心を持ってほしいかを、具体的な目標や、特に目標を定めること、目標を達成するための努力の仕方など、どんな教室環境を準備してほしいか、あらかじめ伝えておくことがよいでしょう。

02 中学校生活のルールやマナーを知ろう

校則という形で定められたものの他に、学校生活を送る上で守らなければならないルールがあります。例えば登校時間、入学した後の生徒は把握していただく必要があります。そのほか、学校生活のルールやマナーを「しおり」のようなものを作成しておくという活動のときに役立ちます。

小学校では教科の授業を受けはじめるための準備がはじまっていますが、中学校では授業科目も増えます。しおりに校内配置図を載せておくと、自分で場所を確認する生徒が多くなります。

03 中学校生活への期待や気持ちを表す

入学した後の段階で、作文を書く活動を行う機会が多いでしょう。いわゆる「中学生になって（抱負）」です。中学校生活で頑張りたいことや不安なことを表してもう活動です。どんな生徒も自分の手紙が一つの「しおり」のようなものを作成しておくという活動のときに役立ちます。

入学した後の段階で、作文を書く活動を行う機会が多いでしょう。いわゆる「中学生になって（抱負）」です。中学校生活で頑張りたいことや不安なことを表してもう活動です。どんな生徒も自分の手紙が一つの「しおり」のようなものを作成しておくという活動のときに役立ちます。

1 目標・注意事項

その月の学級経営での目標、考え方、注意事項を紹介しています。月ごとに何をやるべきなのかを学年で共有する際、このページが参考になります。1年間というスパンで生徒・クラスの成長を捉える中で、月ごとにPDCAを回していきます。

2 月のねらいに合わせた実践例

ここでは、その月のねらいを達成するための実践例を紹介しています。教師の言葉かけから、ゲームなど幅広い内容となっています。自身の学級経営にマンネリを感じてきたら、ぜひ、ここでのアイデアを実践してみてください。

3 活動の流れ

紹介する活動について、そのねらいや流れ、指導上の留意点をイラストとともに記しています。その活動のねらいを教師がしっかりと理解することで、教師の言葉かけも変わってきます。この一連の活動で、その月の学級経営の充実を目指していきます。

4 中心となる活動・場面など

紹介する活動において、中心となる活動や場面などに焦点を当て、活動の大切なポイントを解説しています。その後のゴールのイメージをもつ際に役立ちます。学級経営では、生徒の発言を受け止める、つぶやきを大切に、温かな言葉かけが大切です。

1 第1学年における 学級経営の ポイント

2 第1学年の 学級経営

はじめに ……1
本書の見方 ……2

第1学年における学級経営のポイント ……8

4月 最高の出会いを演出する ……16
春休みまでに行う新年度準備 ……18
出会いを演出する入学式 ……20
中学校生活のスタートダッシュ ……22
新生活に慣れる ……24
安全・安心で楽しい給食 ……26
保護者の信頼を得る ……28

5月 自己調整のスタート ……30
生徒が進める朝の会・帰りの会 ……32
責任感を養う係・委員会決め ……34
主体的に取り組む生徒会活動 ……36
学校生活を充実させる部活動 ……38

6月 学習への取り組みを支える学級づくり ……40
運動会に向けて ……42
絆を深める運動会 ……44
いじめ防止のための人権教育 ……46
家庭学習の充実 ……48
細やかな生徒指導 ……50

7月 1学期の振り返りを2学期の見通しへ ……52
人間関係を円滑にするトレーニング ……54
1人1台端末を使いこなす ……56
宿泊行事で親睦を深める ……58
信頼関係を高める保護者面談 ……60

学級担任の「夏休み」 ……62

9月 じっくり生徒と向き合う2学期 ……64
リーダーを育てる席替え ……66
きまりを見つめ直す ……68
遅刻、欠席、早退の丁寧な対応 ……70
転入出の生徒が出たとき ……72
自分を守る避難訓練 ……74
自治意識を育てる生徒会役員選挙 ……76

10月 集団を意識させて自主性を育てる ……78
標準服の着こなし ……80
生徒が進める給食の時間 ……82
安全に対する意識を高める ……84
気持ちを高めるメッセージ ……86
学習発表会に向けて ……88

11月 生活規律の再確認 ……90
国際理解を推進する ……92
朝読書で行うビブリオトーク ……94
トラブルは信頼関係を構築するチャンス ……96
計画性を身に付ける定期テスト ……98
定期テストで自己を分析する ……100

12月 2学期の振り返りを3学期の見通しへ ……102
信頼関係を育む日誌指導 ……104
課題を共有する三者面談 ……106
計画的に取り組む大掃除 ……108
学級委員の意識を育てる ……110
小中の連携を図る生徒会サミット ……112

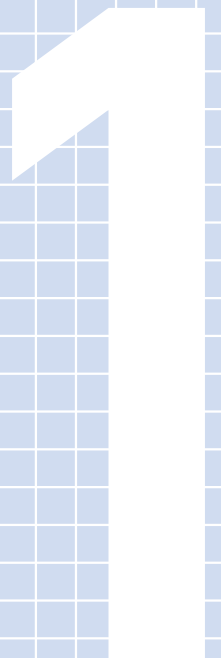
1月 2年生の「0学期」 ……114
安心感を与える教室掲示 ……116
居心地がよい教室環境 ……118
命を守る不審者対応訓練 ……120
将来の職業を考えるキャリア教育 ……122
生き方を考えるキャリアパスポート ……124

2月 学級づくりの総仕上げ ……126
多面的に捉える生徒理解 ……128

3月

誰にとっても過ごしやすい学校生活	……130
地域をめぐる校外学習	……132
想いが伝わる学級通信	……134
不登校生徒へのサポート	……136
感謝を伝え、称え合う	……138
生徒の成長と感謝を伝える保護者会	……140
2年生につなげる通知表	……142
卒業生へのメッセージ	……144
地域に貢献する美化活動	……146
生徒が企画・運営する球技大会	……148
2年後の自分を見据えた卒業式	……150
執筆者一覧	……152

第1学年における 学級経営の ポイント



第1学年における 学級経営のポイント

集団や社会の一員としての自覚を深めるなど、豊かな人間性、社会性を体得して自らの成長発達を目指しているのです。

2 まず信頼関係を築く

学級は社会性を学ぶ営みであり、教師も生徒も同じ人間として基本的な生活習慣の上で立つて結ぶ信頼関係を育むことがその前提にあります。それは、日常の生徒指導や普段の授業での学習活動でも、同じです。学級の目標や学級の規範を共通理解のもとに設定し、相互に協力し、望ましい人間関係を築き、充実した学校生活を実現するように仕向けます。その際、信頼関係がなければ良い方向には進みません。生徒の所属意識や連帯意識が信頼関係に基づいていることが基本なのです。それは生徒が互いに人格を尊重し合い、個人を集団に埋没させることなく、それぞれの個性を認め合い、伸ばしていく活動をしていくことを意味しています。

ところで、集団活動を進めていく上で、最初に形づくべき最も大切なことは何でしょうか。それは信頼関係です。信頼関係が基本です。言うまでもないですが、生徒同士の信頼関係や、学級担任と保護者との信頼関係、学校に関わる職員同士の信頼関係も重要です。それらの中でも、最も基本的なことは学級担任と生徒との間の信頼関係です。

学級担任としてまず念頭に置くことは、生徒を認めることです。それには、まず、自然な会話です。「よりよい人間関係」は、突然できるものではありません。教師自身の日々の温かい言葉かけで始め、相互の会話や交流の中から関係を深めていきます。その際、学級担任の言動が、そして、教育活動として行っていることが、温かい人間関係をつくり上げるものにつながっているかどうかを考えながら、生徒に接します。その姿勢が生徒の信頼を得、人間関係を築いていくことにつながります。

そもそも学校という仕組みは、教師と生徒を上下関係に価値付けがちです。「先生」という敬称がすでに上下関係を示しています。友達のような対等な関係は望ましくありませんが、かと言って上下関係だけではよい学級集団ができません。まず教師は、生徒と信頼できる温かい人間関係を互いに形づくるとともに、多様な生徒の個性を柔軟に受け止め、心を開くことができるように一人ひとりを認めることが求められます。

3 互いに認め合う

学級は、学校生活を送る上で、また学習を行う上での基盤となる場です。一人ひとりがここにいると安心できる、向上しようとする意欲が引き出せるからです。そのために生徒の特性や発達課題を十分に捉えていなければ効果的に進めることはできません。ここに、生徒理解の必要性があります。

現在、様々な環境で、それぞれその生徒なりの思いをもって生活しています。その中で、教師に対して許容しがたい態度が表れる場合もあります。そのようなときにどう接していくかを考えなければいけません。次のようなことが大切になります。

1 学級経営の教科書はない

学校では、主たる教材として検定済教科書を使った授業が展開されています。学習指導要領に基づいて作成された教科書があるので、教師は、あるいは生徒も、安心して授業に臨めます。ある意味、教科書は拠りどころになっています。

しかし、学級経営に教科書は存在しません。そもそも、教科書を通して指導するものではありません。現実の教室では、思いがけないほど、いろいろな問題が発生します。発生する問題は教科書には書き表せないほど、様々なものがあり、さらにその対応にも様々な手立てがあります。

学級は、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るための基礎的な集団です。中学校の学習指導要領は、次のように示しています。

「学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援すること。(総則・第1章第4の1の(1))

学級担任は、生徒の毎日の生活場面における彼らの言動・態度を主たる手がかりに指導を展開しています。そこでは、知識、理解、技能などの習得をするというよりは、むしろ生徒の個性を伸ばし、社会性を育むなど、望ましい人間形成・人格形成を図ることが主なねらいとなります。実際の生活や体験による学習、すなわち「為すことによって、学ぶ」のが学級経営です。

多様な活動に取り組む過程において、所属する学級集団自体の改善・向上を図る活動も行っています。多様な活動を通して、自他の個性を発見し、理解するとともに、それによって、自らのよさや可能性を伸ばす自主的・実践的な態度を育成しようとしているのです。すなわち、学級経営では、生徒が社会的な自己実現を図るために必要な資質の育成を目指しています。

また、学級経営は「望ましい集団活動」づくりを重視している教育活動でもあります。生徒が学級や生徒会などの様々な集団における実践的活動を通して、所期の目的を達成しようとする際に、

最高の出会いを演出する

▶ 4月の目標

入学式は新しい出会いのスタートです。新しい先生、新しい友達、新しい学校名とクラス名、出席番号と、今までとは違うことに、ワクワクする前向きな気持ちをもつ生徒がいます。その反面、環境の変化に不安な気持ちをもち、気分が晴れない生徒もいます。中学校では教科担任制となり、朝の会、帰りの会しか会えない担任との距離に慣れなかったり、知っている友達が少なかったりすることで、学級への所属意識が低くなりがちです。しかし、出会った先生や仲間を大切にできるような経験が大切です。そこで、学級が自分のベース(拠点)や、仲間づくりのスタートとして学級が意識できるように学級を運営していきましょう。



4月の学級経営を充実させるために

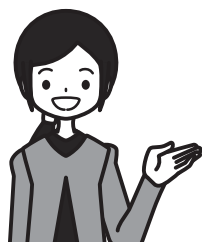
「最高の出会い」をつくり出そう

生徒だけでなく、新1年生の学級担任も今後の学級経営を考えると、前向きな気持ちと不安な気持ちが混じっていることが多いでしょう。そこで、入学式後の学級での担任からの話として、出会った喜びと、新しい出会いへの不安について、ゆったりと話すことで安心感をもたせていくことが大切です。生徒と担任の両者が自分の気持ちを受け止め、多様な気持ちをもつ生徒の存在を認める環境づくりを始めるスタートとします。



はじめの担任の話の例

「1年A組の担任の〇〇です。入学式での立派な姿から、みなさんと出会えたことをうれしく思います。クラスや私の名前なども覚えるのが大変ですね。クラスの友達も知っている人もいますが、新しい友達がいて名前と顔が分からない人もいますね。私もみなさんと同じように不安もあります。けれど、この出会いを基にして、A組がみなさんのベース(拠点)となるように大きく育てていきたいと思っています。はじめに、名前を知るために名刺交換をしましょう。その後、自己紹介シートを記入します。この後の自己紹介には、『A組ベース』として、みなさんの考えやアイデアを書いてください」



注意事項

学年や学級での共通のルール(マナー)を確認する

新しい仲間の中で初めての発表です。緊張することで、言葉を間違えたり、なめらかに話せな

ったり、声が小さかったりする場合があります。そこで、事前に全員が上手にできるとは限らないことを話して、分からないときは自己紹介シートを見たり、担任からアドバイスや話しかけたりすることを説明しておくのが重要です。さらに、発表内容をからかったり、ふざけたりしないことを学級のルールとして確認しながら、多様な生徒の存在に気が付けるようにしましょう。

自己紹介のコツ

▶ねらい

はじめは名刺交換、次に自己紹介シートの作成の順であることを説明します。名刺は事前に1人10枚程度を記入し配布できるように準備して、名前にはふりがなをふり、もらった人が間違えないように配慮しましょう。名刺に記入する項目は、「好きな食べ物」のように誰でも短時間で考えられるような内容とし、「嫌いな食べ物」のように否定的な内容にならないようにします。名刺交換時に、クラス名を入れて何回か話すと、自分のクラスを意識し、クラスへの所属意識が高まります。

1年A組の
〇〇 〇〇(ふりがな)です。
好きな食べものは
サンドイッチ です。

活動例

A: 名刺交換

- ① はじめの5分間で名刺を記入する。
- ② 机と椅子を教室の後ろに寄せ、名刺を持った生徒は好きな場所で待機する。
- ③ 音楽を流し、時間は決めずに途中で音楽をストップさせて、近くの2~3人と名刺交換をする。交換の時間は短くして、なるべく多くの生徒と名刺交換できるように工夫する。
- ④ 自分の名刺がなくなった生徒は終了となるが、交換するタイミングや積極的に交換できない生徒がいることを予想して、事前に、すべて時間内で交換できなくてもよいことを説明しておく。積極的でない生徒と担任が交換したり、複数の生徒と同時に交換したりするなどして、学級に慣れていけるように配慮する。



B: 自己紹介シートの活用

自己紹介シートは、「簡単に記入できるデザインをする」ことで、生徒の負担を減らす配慮をする。完成したシートを生活班ごとに学級の後ろに掲示し、昼休みや放課後などに生徒同士や担任と会話ができる時間を設定する。例えば、絵が丁寧、色が多く使って工夫されている、はやっている物などの話題を引き出し、自分と共通なことや興味をもつ内容を言葉に出す場面から、仲間づくりのきっかけとすることができる。

活動後のポイント

名刺交換で学級を構成する生徒の特徴と学級の雰囲気を把握した後に、自己紹介シートを活用します。シートに学級経営の中心となる学級目標の作成につながる「ひとこと」や「思い」を記入する箇所を用意して学級担任の思いを伝えるとともに、生徒の学級への所属意識を高めます。

春休みまでに行う 新年度準備

ねらい

今年度の学級経営に見通しをもち、計画的に準備を進め、ゆとりある新年度のスタートを切る。

指導のポイント

新入生が入学してくると慌ただしい日々が続いています。特に4月は、生徒たちの人間関係や学級組織の構築、4月にならないと取り組めない校務などがあります。

担任にとってはいきなり正念場となります。そのため、前年度や春休みの準備が非常に重要です。前年度に生徒の情報を集め、学級経営の見通しをもちましょう。春休みを利用して、教室整備、掲示など、できることは準備を進め、ゆとりある新年度のスタートを切りましょう。

小学校での聞き取りの様子

- 聞き取りのポイント
- ・氏名
 - ・アレルギーの有無
 - ・学習状況
 - ・友人関係
 - ・人間関係形成能力
 - ・運動能力
 - ・ピアノ経験の有無
 - ・健康面の配慮 等



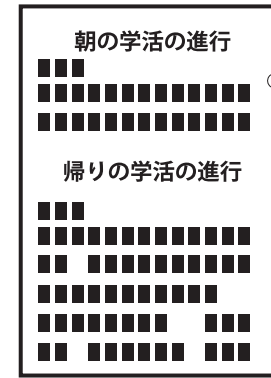
学級経営方針案イメージ

〇〇年度 1年〇組 学級経営方針

1. 学級経営目標
2. 学級経営方針
 - (1) 学習指導
 - (2) 生活指導 (いじめ防止を含む)
 - (3) 進路指導
 - (4) 道徳指導
 - (5) 特別支援教育
3. 環境の点検と整備
4. 保護者・地域との関係

学級のルールには次のようなものがあります。学年会で詳細を確認しておきましょう。

- ・朝の会の内容
- ・日直の仕事内容
- ・帰りの会の内容
- ・給食準備、片付けの方法
- ・給食のおかわりについて
- ・清掃のしかた
- ・各係の仕事内容
- ・ロッカーの使い方等

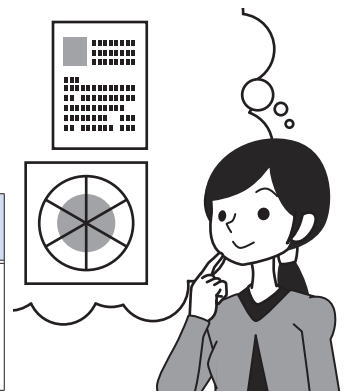


朝の会や帰りの会の流れはラミネートして出席簿に、日直の仕事内容はラミネートして日直日誌にはさんでおくといいでしょう

掲示物等の準備

教室の掲示物には以下のようなものがあります。

担任から配布されるが 掲示するもの	担任や学級で用意するもの
<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより ・月行事予定 ・給食の献立 ・学年目標 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だより ・年間行事予定 ・生活指導関係 ・学級通信 ・自己紹介カード ・委員会、係の一覧 ・清掃分担表 等 ・学級目標 ・班編成



前年度と春休みの準備

01 前年度の準備(3月)・ 出身小との連携

「生徒情報の聞き取りを行う」

小学校の予定(進学先決定や卒業式など)に合わせ、2月下旬から3月上旬に行われます。健康面への配慮事項や人間関係形成能力などの情報を聞き取ります。

「学級編成を開始する」

小学校からの情報を基に、学年会で学級編成が始まります。健康面、運動、ピアノ経験など様々な事項に配慮していきます。

02 春休みの準備①

「新学年会で学級編成を決定する」

春休みの期間中には、新1年生の担任、副担任がそろそろ学年会があります。ここでは、配慮事項を踏まえた学級編成を検討して決定をします。

「学級経営方針案を考える」

担任として「どのような学級をつくりたいか」を明確にすることが、学級経営の始まりです。学校経営方針、学年経営方針を踏まえて、学級経営方針案を作成しましょう。

学級編成の情報、学年会や職員会議での資料を基に、「基礎学力の定着」(学習指導)、「思いやり、尊重」(生活指導)など、具体的に決めます。

03 春休みの準備②

「学級のルールをつくり上げる」

学級のルールは生活指導の大きな柱です。基本的な生活ルールを学年会で協議し、学年で統一することで学年全体の足並みがそろいます。

入学式直後の学級には様々な生活ルールをもった生徒が集うため、トラブルが起きやすくなり学級が荒れる原因となります。春休みに、学校生活のルールや学級のルールが定着できるように準備に取り組みます。

担任から学級経営の方針が伝わるよう、分かりやすい言葉を使ったスローガンの作成や掲示物の表示など、生徒への伝え方を考えてみましょう。

04 春休みの準備③

「掲示物の確認をしておく」

新年度には共通の掲示物があります。また、学級で必要になる掲示物(班の組織一覧や清掃分担表等)の準備や作成も重要です。数多い掲示物を教室のどこに、どのように掲示するか掲示物のレイアウトを考えておきましょう。

生徒の自己紹介や活動の記録を掲示する場合は、掲示用ホルダーの活用も有効です。最初に生徒数用意して教室に掲示しておく、生徒の作成したものを画鋏で傷つけることなく掲示でき、年度末にまとめて返却することができます。

出会いを演出する入学式

ねらい

新入生が安心して中学校生活をスタートし、充実した中学校生活をイメージできる。

指導のポイント

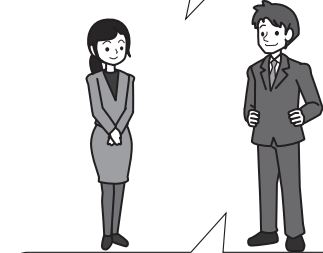
新入生は期待と不安を胸に、緊張した状態で中学校へと入学します。入学するすべての生徒がこれから始まる中学校生活を成功させたいと思っています。

よいスタートを切るには担任の事前の準備や当日の指導が重要になります。また、入学式は事前の聞き取りの情報を踏まえて、生徒の様子がよく分かる貴重な機会です。

入学式を成功させて担任と生徒が最高のスタートを切れるように準備をしていきましょう。

●最初の出会いで最高の出会いを演出する

目（視覚）から入る情報
→姿勢、視線、表情、身だしなみ



耳（聴覚）から入る情報
→挨拶、言葉遣い、声のトーン

▶黒板装飾の様子



準備の流れ

01 新入生を迎える環境を整える

- 新入生が使用する教室を確認します。
- 教室全体の環境
- 机や椅子の様子
- 以前使っていた生徒の情報が残っていないか。机の中、外、天板のいたずら書きや彫り込みなど。
- 机と椅子にナンバーを貼る
- 黒板装飾のポイント
- 黒板には入学をお祝いする装飾や担任からのコメントを書き、入学を心待ちにしていたことを表現します。

02 最高の出会いを演出する

身だしなみやふるまい、声のトーンによって新入生の担任への印象は大きく変わります。そのため、これらのことへ配慮することが非常に重要となります。最初の出会いを最高の出会いにするために、必要な視覚と聴覚の情報を考えてみましょう。

- 目（視覚）から入る情報
→姿勢、視線、表情、身だしなみ
- 耳（聴覚）から入る情報
→挨拶、言葉遣い、声のトーン

おはようございます

先生が来るまで、自分の席に座り、入学式のポイントを読んで待っていてください。

☆入退場の確認

【入場】 *3年生の先輩の引率で、出席番号順で1列入場。
間隔は2mくらい
*座席は出席番号順（下の図の通り）

B組					舞台	A組				
1	2	3	4	5		1	2	3	4	5
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
6	○	○	○	10		6	○	○	○	10
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
11	○	○	○	15		11	○	○	○	15
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
16	○	○	○	20		16	○	○	○	20
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
21	○	○	○	25		21	○	○	○	25
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○

入場 ← → 退場

- 座席の前に立ったまま待つ。
- 先輩がプラカードをおろしたら着席する。

【退場】

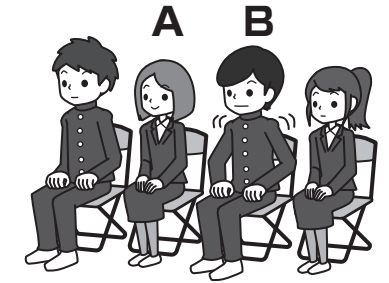
- 担任の合図で起立。
- 座席の前に立ち、中央を向く。
- 中央の前方から、退場。5→1、10→6、15→11、20→16、22→21

○呼名の確認

- 呼ばれたらその場で起立。元気よく「はい」と大きな声で返事をする。
- 座らないで待つ。
- 全員が呼ばれたら、先生が「着席」と言います。

○起立・その他の号令の確認

「皆様ご起立をお願いします」
「新入生、起立、礼、着席」
「一同、礼」



Aさんはしっかり話を聞いている。
しっかりした子なのかな



03 入学式当日の指導について

当日は、新入生が登校してきてから入学式が始まるまでの時間で入学式の動きについて指導します。入退場の説明、呼名の確認、起立の場面や礼をする場面等の確認を行います。事前の準備がないと説明が複雑で大変です。流れをまとめたものを教室に掲示したり、新入生に配布したりして対応しましょう。流れの確認が済んだら、必ず1回は名前の読み方の確認も兼ねて呼名の練習を行います。

04 入学式中の動き

入学式では、新入生の呼名が担任の大きな役割です。堂々と自信をもって行いましょう。呼名以外では、新入生の様子に気を配ります。入学式は生徒の様子から生徒の特徴をつかむチャンスです。ここで得た情報を翌日以降の、学級経営に活かしましょう。入学式が無事に終わったら生徒たちを認めてあげることも重要です。呼名の返事が大きい、しっかりと話を聞いている、いい姿勢で座っている、堂々と入場している等、できていたことを褒めてあげましょう。

中学校生活のスタートダッシュ

ねらい

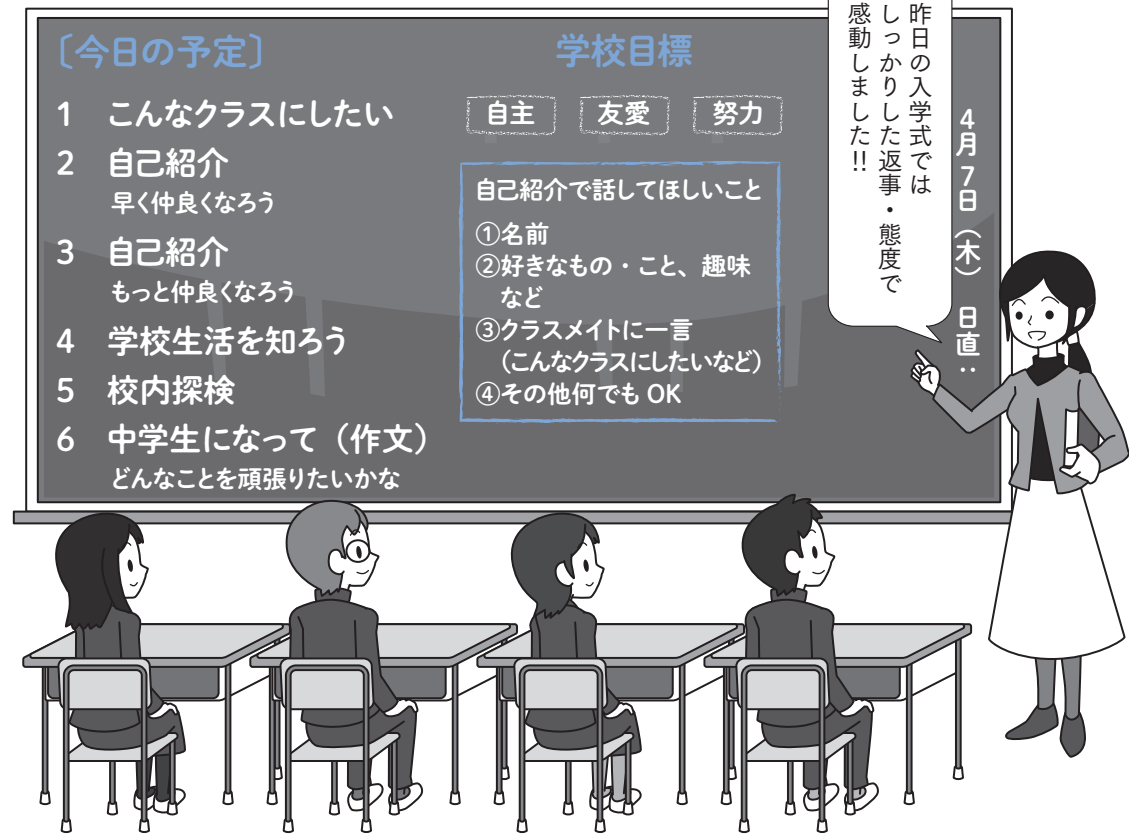
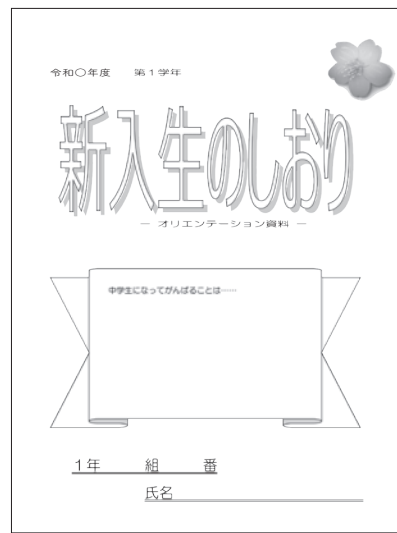
良い緊張感のもと、中学校の生活を始められるようにする。

指導のポイント

今まで通っていた小学校と違う環境に飛び込むことになる生徒は、緊張も大きいと予想されます。中学校の環境やシステムに早く慣れ、安心して通学できるような声かけや活動を心がけたいところです。

また、出身小学校も複数なることを念頭に置いておくとよいでしょう。

- 〈信頼を得るために〉
- ① 相手の目を見て話す
 - ② 教室を見渡して、生徒の様子をよく見る
 - ③ 優しいだけでなく、厳しさをもつ
 - ・いじめ
 - ・人の心身を傷つける行動・言動
 - ・みんなの頑張りを笑う、手を抜くを許さない
 - ④ 教室環境を常に整える



活動の展開

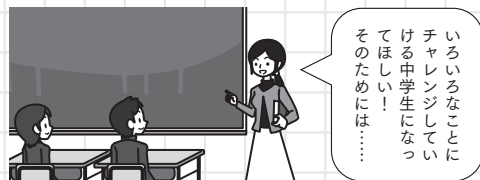
01 担任との出会いも大切に

入学式前後の学活で、担任の簡単な自己紹介や抱負は話していることでしょう。気が早いようですが、今度は改めて3年後の卒業を見据えて、どんな中学生になってほしいか、どんなふう成長してほしいかを、柔和な表情を忘れずに語りかけましょう。

今後叱ったり注意したり、指導したりする場面が必ず訪れます。その際にも、長い目で見た目標がある、そうやってほしいという担任としての気持ちや想いがあるのだと伝えていくことは大切です。

「学校は失敗する場」です。不安もあるだろうけど失敗を恐れずいろいろなことに挑戦してほしいと、気持ちを伝えていきましょう。

礼の仕方（立礼・座礼等）、机配置などは、学年で統一されることでしょう。小中学生の荷物の重さも問題になる昨今。ロッカーの荷物も決めるかもしれません。しかしその運用方法、特に乱れをどの程度注意し、改善を促すかは担任により多少のゆらぎが起こります。どんな教室環境を保ってほしいか、あらかじめ伝えておくとよいでしょう。



02 学校生活のルールやマナーを知ろう

校則という形でまとめられたもの以外にも、学校生活を送る上で守らなくてはいけないルールがあります。

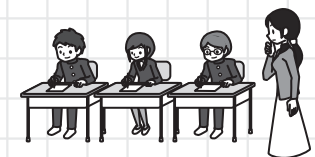
例えば登校時間も、入学したての生徒は把握してなかったりします。それら学校生活のルール等をまとめた、「しおり」のようなものを作成しておくといろいろな活動のときに役立ちます。

小学校では専科の授業を除けばほとんど自分の教室だけで生活していましたが、中学校では頻りに教室移動も行われます。「しおり」に校内配置図を載せておくだけで、自分で場所を確認する生徒が多くなります。



03 中学校生活への期待や気持ちを表す

入学したての段階で、作文を書く活動を行う場合が多いでしょう。いわゆる「中学生になって（抱負）」です。中学校生活で頑張りたいことや不安なことを表してもらう活動です。どんな生徒かを知る手がかりの一つになります。文章が苦手な生徒にとっては難題ですが、気軽にやりとりしながら、「それ（その気持ち）を書けばいいんだよ」と声かけをして、素直な表現を引き出すようにしましょう。



新生活に慣れる

▶ねらい


複数の小学校や地域から入学してきた生徒たちの相互理解を深め、よりよい学級集団の形成につなげたい。

▶指導のポイント

お互いについて知る、学校について知る、学校生活のリズムを知るといふように、学校での生活に慣れるような取り組みをしていきます。

活動の中で担任が適切な声かけをしていくことで、生徒は担任に慣れ、担任は生徒との関わりを増やし、生徒理解につなげましょう。

自己紹介カード

	名前	_____
	趣味	_____
	特技	_____
	得意なこと	_____
自己PR	苦手なこと	_____
	苦手なこと	_____

個人情報に関わる部分は除く

フリースペース

自好紹介

1年 A 組 1 番 氏名 ○○ ○○

好きな科目 国語
趣味 読書（ミステリが好きです）
 ○○をよく読んでます
 YouTubeを見ること
 (○○をよく見えます)



職員室への入り方など、何人かで実技練習をしてみてもよいでしょう。

司書の先生にお願いして、図書室の資料の使い方や貸出の仕方を説明してもらおうと、利用しやすくなります。

保健室へ行く場合、休み時間ならクラスメイトに伝えたり、授業者の先生に伝えたりすることを説明しておくともよいです。関係の委員の生徒に申し出て、連れてきてもらうことも伝えておきましょう。



活動の展開

01

自己紹介で初めての発表活動

初めての発表活動なので、多様な生徒がいることを考慮して、あらかじめからかたりしないように注意を促し、もしそれをしてしまった生徒がいたら、タイミングを見てそっと近づいて優しく指導するようにします。担任が見ていること、そういう姿勢や態度を見逃さないことが大切です。その行動が安心して登校できる雰囲気をつくり出すことでしょう。



自己紹介カードはどんなものでも構いません。好きな科目や苦手なことなど、項目を分けて書き込んだり、似顔絵を描いたりするものがよくあります。学校に蓄積されているものを使えばよいでしょう。好きなものを書いて紹介する「自好紹介」もよく使われます。同好の士を見つけることは、友達づくりの早道です。

1人1台端末の環境が整ってきています。自己紹介カードを投影、または生徒の端末に配信したり、スライドの形で作ったりすることも考えられます。生徒のスキルや学校の機材の環境によって検討するとよいでしょう。小学校英語も始まっています。英語の授業とも連携し、英語で答えるコーナーなどを作ってもよいかもしれません。自己紹介カードは担任も書いて掲示しておくのを忘れずに。

02

初めての校内探検

「しおり」に付けた校内配置図を見ながら、校内を巡回してみましょう。上級生の授業の様子を見たり、様々な特別教室や図書室等を見て回るだけでも緊張を新たにするものです。

クラスの人数が多い場合は、副担任の先生にお願いして半分ずつに分けて行うとよいでしょう。授業中の教室外活動なので、うるさくしないことなど十分指導することは当然ですが、朝の職員打ち合わせ等であらかじめ活動について知らせておくことも大切です。



03

図書室の活用法を司書さんから

中学校では、教科ごとに先生が変わり、学習のスピードも速くなっていきます。自分で調べるための図書室の役割が大きくなってきます。教職員である司書さんと連携して、図書室の使い方や図書分類の基本を覚えてもらう時間を設けましょう。

読書習慣のある生徒はともかく、そうでない生徒は図書室への敷居が高いと思います。近年では、マンガを置いている学校図書室も多いので、マンガ目的でも活字に触れる機会を増やすとよいでしょう。